

第30回大沼杯小学生ハンドボール大会

競 技 上 の 注 意

1. 競技規則

本大会は、2022年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則及びJ クイックハンドボール（U-12ゲーム様式）により実施する。

2. 競技時間・方法

①1日目予選リーグ及び同トーナメント…12分（前半）-6分（休憩）-12分（後半）とする。

2日目男子は決勝トーナメント、女子は決勝リーグ、交流戦…15分（前半）-10分（休憩）-15分（後半）とする。

②予選リーグと交流戦は同点の場合、延長戦を行わない。

予選トーナメント及び決勝トーナメント準決勝が同点の場合は、7mスローコンテスト（3名）をすぐに行う。

決勝及び3位決定戦が同点の場合は、・3分（前半）-1分（休憩）-3分（後半）の第1延長を行い、さらに同点の場合は、7mスローコンテスト（3名）を行う。

③リーグ戦の順位決定は勝ち点制（勝ち2点、引き分け1点、負け0点）とし、勝ち点が同じ場合は、ア) 得失点差 イ) 総得点 ウ) 対戦間の結果 エ) 抽選により決定する。

④加算式のデジタイマーを使用し、競技終了の合図はブザーする。

⑤退場者及び退場時間の表示は退場者タイマーを用いる。入場の判断は、チームの責任による。

3. 大会使用球

（公財）日本ハンドボール協会の検定球を使用する。空気圧は監督、審判員によって決定する。

4. トス、ユニフォームについて

①トス及びユニフォームの確認は、第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に、オフィシャル席前で行う。その試合に着用する全ての種類のユニフォームを持参すること。調整がつかない場合は、組み合わせ表の上段、および左側を優先とし、下段および右側のチームが変更する。立ち会いは選手、役員いずれでもよい。

②ユニフォーム・装具等については、2022年度 J H A 「服装や保護を目的とした装具に関する規定」を適用するが、チームごとに諸般の事情がある場合はトス時に審判員並びに対戦相手と協議する。

③出血して血がユニフォームに付着し、拭いきれない場合は、ユニフォームを交換しなければならない。その際、番号は異なってもかまわない。また、ユニフォームが破損した場合も同様の措置をとる。

5. メンバーの確認

①参加申し込みで決定したチーム役員、選手のみが競技に参加、出場することができる。

②ベンチには、チーム責任者1名を含み、チーム役員4名、選手16名の合計20名まで入ることができる。

③チーム役員は、大会主催者が準備したA、B、C、Dの役員カードを着用し、試合終了後返却する。

6. 公式記録用紙の確認

①チーム責任者は、試合開始前に、チーム役員及び選手の氏名と背番号が正しく記入されているかを確認しサインする。

②公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

7. 交代地域

①各チームのボールは、競技開始前にケースに収納し、競技開始後のボールの使用は禁止する。

②飲料水は、飲み口の細い容器を使用すること。コップの使用と禁止する。なお、感染症防止の点から共用は禁止とする。

③感染症防止の観点から、ベンチにいる選手、役員はマスクを着用する。

8. チームタイムアウトについて

予選リーグ、予選トーナメント及び交流戦はチームタイムアウトの請求はできない。

決勝トーナメントにおいてチームタイムアウトの請求は、前後半1回ずつ可とする。チーム役員がチームタイムアウト請求カードを記録席の机の上に置くか、TDに手渡した時点でのボールの保持の状態により、チームタイムアウトが決定される。

9. 休憩時間

①休憩時間（ハーフタイム）のコートは、次の試合のチームの練習に使用する。

②感染症防止の点から、ベンチの移動時は、各チームで大会事務局が準備した消毒液で消毒すること。

③ハーフタイムに練習する選手はマスクを着用すること。

10. 松ヤニ等の使用禁止

松ヤニ、松ヤニスプレーの使用は一切認めない。両面テープの使用のみ認める。

ただし、ボールをしっかりと握ってハンドボールをするということを第一の観点にして(公財)日本ハンドボール協会小学生専門委員会で採択された「ボール規定」の変更により、新認定球（素手でも握れるボール）になったことも考え、素手でプレーすることを推奨する。

※小学生専門委員会での採択は「ボールサイズの規定変更」であって、両面テープの使用不可を採択したわけではありません。全国大会でのみ両面テープの使用を不可としたもので、その他の大会においては使用が禁止されているわけではありません。一番大切な理念であるしっかりと握ってハンドボールをすることを考えた際、今大会は1年生から参加できる大会であること、気温の低さや乾燥する季節であることも考慮し、そのままではしっかりと握ることができない選手の両面テープの使用を禁止しません。

11. MO（マッチオフィシャル）・TD（テクニカルデレゲート）、裁定委員会

①本大会ではMOは置かず、TDを決勝トーナメントのみ配置とする。TDは、競技委員長のもとで競技役員として担当の試合に立ち会う。試合を円滑に運営するため、審判員、全ての競技役員、補助員と協力して試合を管理する責任者である。

②本大会に裁定委員会を設置する。委員は大会委員長、審判長、総務委員長、その他とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。

12. 負傷等による血液の処理について

ゲーム中における出血の処理については、細心の注意を払わなければならない。従って、血液を拭き取るためのゴム手袋、雑巾等を特別に準備し対応すること。なお、拭き取り等は責任ある役員が行うものとする。また、血液の付着したユニフォーム等は使用することは出来ない。背番号は変わることになっても、他のユニフォームに着替えなければならない。

13. その他

- ①次の試合の選手は、試合終了時に両チームの挨拶が終了するまでコート内への立ち入りを禁止する。ウォーミングアップはトレーニングルームで譲り合って行うこと。
- ②試合終了後の挨拶はコートに選手全員が整列し、正面及び記録席に一礼する。両チームすれちがいながら握手やハイタッチは行わない。相手ベンチへの挨拶は代表者1人のみとする。
- ③横断幕等は一般観戦者や応援者の視界を妨げる場所には張らないこととし、主催者側の指示を受けること。
- ④本大会は、観客に制限を設けて実施する。観覧については、各チーム20名以内の入館を認めること。（小学生以下は1名とカウントしない。中学生以上を1名とカウントする。）
- ⑤選手の体調管理は各チームでしっかりと行うこと。
- ⑥眼鏡を使用しての試合参加は可とする。ただし、バンドを装着し落下しないようにすること。
- ⑦選手は爪を切っておくこと。爪が長い選手は爪を切るまでは試合に出場できない。
- ⑧手首のミサンガ、手首のヘアゴム、髪留めのヘアピンの使用を認めない。
- ⑨2022年7月1日より施行された新競技規則については、「ゴールキーパーの頭部へボールが直撃した際の罰則」と「パッシブプレーの予告合図後のパス回数は最大4回」のルールを適用する。